

GPT-5.2は2025年12月9日にリリース? コードレッドの背景と最新情報

GPT-5.2リリース目前：12月9日説の根拠

OpenAIの次期言語モデルGPT-5.2が、**2025年12月9日（火）**にリリースされるとの有力な報道が相次いでいます^①^②。著名テックメディアのThe Vergeは、内部情報に詳しい関係者の話として「OpenAIは当初12月後半に予定していたGPT-5.2の公開を前倒しし、**12月9日**に投入する計画だ」と伝えました^①。同じくTimes of Indiaも「OpenAIがGPT-5.2を**12月9日に前倒しリリースする見込み**」と報じており、これはGoogleが発表した新モデルへの**緊急対応（コードレッド）**だとしています^②。

こうした日程が取り沙汰される背景には、OpenAI内部で発令された「**コードレッド（Code Red）**」という緊急体制があります。Sam Altman CEOは**今週初め（12月第1週）に社内でコードレッドを宣言**し、GoogleやAnthropicからの競争圧力に迅速に対応するよう社員に指示しました^③。このコードレッド宣言以降、GPT-5.2のリリース時期が「来週中（＝12月第2週）」から具体的に**12月9日**と定まり、一気に前倒しされたと報じられているのです^④。OpenAIは公式コメントを控えていますが、複数の情報源からこの日付が示唆されており、信ぴょう性は高いと言えます^⑤。

Google Gemini 3と「コードレッド」：前倒しを迫った理由

では、なぜOpenAIはGPT-5.2をそんなに急いで投入しようとしているのでしょうか。その直接のきっかけは、**Googleの新モデル「Gemini 3」**の驚異的な成功です。Google傘下のDeepMindが2025年11月にリリースしたGemini 3は、各種ベンチマークでトップに躍り出てAI性能の記録を更新し、OpenAIのAltman氏やxAIのElon Musk氏さえも驚嘆させたとされます^⑥。実際、**Altman氏は珍しく公の場でGemini 3を「素晴らしいモデルだ」と称賛**し、Musk氏もGoogle CEOのSundar Pichai氏らに祝意を送りつつ自社のGrokモデルのアップデート（バージョン4.20）を示唆するなど、業界全体がGeminiの衝撃に反応しました^⑦。このように**競合他社の快進撃**によって競争環境が一変したことが、OpenAIに緊急モード＝「コードレッド」を敷かせた最大の理由です^⑧。

コードレッドとは、社内のリソースを最重要課題に集中させる非常事態宣言のようなものです。OpenAIはこれにより「**広告などの収益化プロジェクトを一時後回しにし、ChatGPT本体の品質改善に集中する**」というメッセージを社内外に発しました^⑨。つまり収益よりもプロダクトの改善を優先する方針転換であり、Gemini 3への対抗策として**ChatGPTの大幅強化を急ぐ姿勢**を示したのです。

このコードレッドの一環として、**GPT-5.2が競合モデルGemini 3への“第一陣の回答”**になると位置付けられています^⑩。内部評価では、Altman氏いわく「**OpenAIの次の推論モデル（GPT-5.2）はGoogleのGemini 3を上回っている**」との結果が出ていると報じられました^①。OpenAIは当初、GPT-5.2をもう少し後（年末～翌年）に投入する計画でしたが、**Gemini 3の登場によるプレッシャーでリリースを繰り上げ**、現在は**12月9日に照準**を合わせているとされています^②。まさに**異例のスピード対応**であり、AI開発競争の過熱ぶりがうかがえます。

異例の早さ：GPT-5から5.2までの超高速アップデート

OpenAIがGPT-5.2を急ぐ背景には、**モデル改善のスピード感**も関係しています。今年のGPTシリーズのアップデートは非常に慌ただしく、従来より格段に短いサイクルで行われています¹⁰。実際の更新スケジュールを振り返ると、以下の通りです：

1. **GPT-5** – 2025年8月リリース。GPT-4シリーズの後継として公開されましたが、ユーザーからは「**応答が冷たい**」「**数学や地理の能力が低下した**」など否定的なフィードバックも出ました¹¹。一部タスクでGPT-4（従来版、通称GPT-4o）より劣るとの指摘や、既存のワークフローが予告なしに崩れたとの不満が広がり、OpenAIは**旧モデルGPT-4oを再度利用可能にする措置**を取る事態にもなりました¹²。
2. **GPT-5.1** – 2025年11月リリース。GPT-5への反発を受けて、応答に「より温かみを持たせる」調整など品質改善が行われました¹¹。GPT-5が不評だった点（冷たすぎる口調など）に対応し、ユーザー体験の改善に努めたバージョンです。
3. **GPT-5.2** – 2025年12月9日リリース予定。本来は12月中旬以降と見込まれていた次期アップデートですが、**Gemini 3への対抗策としてわずか1か月足らずで投入**される異例のスピード更新となります¹⁰⁵。サム・アルトマンCEOは社内メモで「内部テストでGPT-5.2はGemini 3を上回る結果を出している」と述べており、その言葉通りの性能向上が実現しているか注目されています¹³。

このように、GPT-5（8月）からGPT-5.1（11月）までは約3か月かかったのに対し、**GPT-5.1から5.2までは1か月も経たず**にアップデートが行われる予定です¹⁰。OpenAIがそれだけ**危機感を募らせている証拠**と言えるでしょう。

GPT-5.2のアップデート内容：新機能より基本性能重視

肝心のGPT-5.2の中身ですが、今回のアップデートは**派手な新機能の追加ではなく、基盤となる性能の底上げ**に重点が置かれると伝えられています¹⁴。具体的には「**速度**」「**安定性（信頼性）**」「**カスタマイズ性**」の向上など、モデルの基本的な使い勝手や信頼性を高める改善が中心になる見込みです¹⁴¹⁵。これはAltman氏が社内のコードレッド指令で示した方針とも一致しており、「**新機能より対話の高速化や応答の安定性向上を最優先する**」姿勢が鮮明です¹⁵。

前述のようにGPT-5では一部ユーザーから応答の質（文体の冷たさや知識分野での後退）について不満が出ていただけに¹¹、GPT-5.2ではまず**既存機能の品質改善**によってユーザー体験を底上げし、**競合モデルに負けない堅実な性能**を実現することが目指されています¹⁴。Gemini 3が画像生成などマルチモーダルな派手さで注目を集めていますが、OpenAIは足元のチャットボットとしての完成度（応答の正確さ・一貫性・対話の柔軟性など）を磨くことで対抗しようとしていますと言えます。Altman氏自身、「今後数か月でChatGPTは大きく進化するが、それは**目新しい機能ではなく速度や信頼性の改善**によるものだ」と示唆しており¹⁶、GPT-5.2のリリースはその**第一歩**となる位置づけです。

Anthropic CEOの見解：「コードレッドは必要ない」

競争が激化する中、第三極ともいえるAnthropic社のCEOである**Dario Amodei氏**は、この「コードレッド」合戦に一線を画す発言をしています。2025年12月4日に開催されたNYタイムズ主催のDealBookサミットで、Amodei氏は「**私たちはコードレッドを出す必要がない**」と語り、OpenAIやGoogleの慌ただしい緊急対応を皮肉りました¹⁷。「我々は少し特権的な立場にいる。ただ成長を続け、モデル開発を続ければいい。コードレッドを出す必要はないのです」と述べたのです¹⁸。この背景には、**ターゲット市場の違い**があります。彼は「狙う市場が違うからだ」と説明しており、要するにOpenAI/GoogleとAnthropicではビジネス戦略が異なるため緊急事態を宣言する必要性も異なる、という指摘です¹⁹。

OpenAIやGoogleが主戦場とする消費者向け市場では、チャットボットを一般ユーザーに提供しサブスクリプション収入を得ています。例えばOpenAIの場合、収益の約70%がChatGPTユーザーの有料プランから来ており、GoogleもGeminiを検索やGmail等の消費者サービスに統合する形で利用者を増やしています²⁰。この領域では、**バイラルな新機能やトレンドが一夜で競争環境を塗り替える**ことも珍しくありません。実際Googleでは画像生成ツール「Nano Banana」の予想外のヒットが起きたように、消費者向けAIプロダクトは爆発的ブームが発生しやすく、その分**競争に晒されるリスクも高い**のです²¹。

一方、**Anthropicが注力する企業向け市場**では、利用企業との契約や専門用途への適用が中心で、安定した性能や信頼性が重視されます。Anthropicの収益の約80%は企業顧客からもたらされており、提供するClaudeシリーズもプログラミング支援や業務文書の作成など**ビジネス用途**での利用が主力です²²。この市場では消費者向けほど急激な変化は起きにくく、派手な機能よりも堅実さが評価されます。そのため**Anthropicは「コードレッド」など慌てた動きをせずとも着実に成長できる**というのがAmodei氏の主張です²¹。

さらにAmodei氏は、現在のAI業界における投資競争にも警鐘を鳴らしました。彼は「一部のプレイヤーは**YOLO**（やるだけやってみよう）的にリスクを取りすぎている」と指摘し、拡大のために**後先考えない巨額投資**を続ける企業体質を批判しました²³。「タイミングを少し間違えただけで、悪いことが起きる可能性があります」と述べ、無謀な先行投資がもたらす危険を示唆しています²³。名指しこそ避けたものの、発言の矛先は明らかにOpenAIやMeta、Googleといった巨額の資金をAI開発につぎ込んでいる企業に向けられていると見られます²⁴。

実際問題として、**OpenAIは今後8年間で1.4兆ドル（約210兆円）ものデータセンター投資を約束しており、2030年までに累計2,000億ドルの収益を上げなければ採算が取れない**という内々の予測もあると報じられています²⁵。これは極めて高いハードルであり、Amodei氏が言うように“**一步間違えば危うい賭け**”と言えるでしょう。Amodei氏は「Anthropicはできる限り**責任を持って運営**しようとしている」と強調しており²⁶、慎重で持続可能な成長戦略を貫く構えです。実際Anthropicは2025年末時点で年間100億ドル近い売上規模に急成長していますが、それでも無理な拡大より**着実なパートナーシップ（例えば大手クラウド企業との提携）や安全性重視の研究開発**にフォーカスしています²⁷²⁸。

まとめと今後の注目ポイント

OpenAIによる**GPT-5.2の電撃リリース（12月9日予定）**は、GoogleのGemini 3登場が引き金となったAI競争激化の象徴的な出来事です。異例の速さで投入されるGPT-5.2は、目新しい機能ではなく**基礎性能の強化によってChatGPTの完成度を高めるアップデート**となりそうです¹⁴。これは8月のGPT-5公開以来指摘されてきた課題（応答品質や安定性）に応えると同時に、競合モデルへの対抗上**不可欠な改善**と言えます。内部テストではGPT-5.2がGemini 3を上回るとの自信も示されていますが¹³、その真価が発揮されるかどうか、**12月9日の発表は業界中の注目を集める**でしょう²⁹。

一方で、OpenAIとGoogleが「コードレッド」を繰り返しつつ**消費者市場で激しく競り合う中**、Anthropicのように企業向けに軸足を置いた静かな戦略がどこまで奏功するかも興味深いポイントです²⁹。AI開発レースはますます加熱していますが、そのアプローチは各社で分かれ始めています。**果たしてGPT-5.2はGoogleのGemini 3を凌駕するのか？そして競争と巨大投資の「YOLO」合戦**とも言える現在の潮流に対し、より堅実路線を歩むAnthropicが示す道にも注目が集まります²⁹。2025年も残りわずかですが、生成AI業界は**最後まで目が離せない展開**が続きそうです²⁹。

Sources:

- The Verge – “OpenAI’s GPT-5.2 ‘code red’ response to Google is coming next week” (Dec 5, 2025)
1 16
- Times of India – “OpenAI’s GPT-5.2 ... may be next week” (Dec 6, 2025) 2 7

- 生成AIキュレーター (note.com) – 「続報：OpenAI 『コードレッド』 その後 — GPT-5.2前倒しと Anthropic CEOの痛烈批判」 (Dec 6, 2025) 10 17
- Qiita 解説記事 – 「OpenAI 『コードレッド』 とGPT-5.2前倒し、その裏で何が起きているのか」 (Dec 6, 2025) 9 12
- WebProNews – “Anthropic CEO Dario Amodei Slams OpenAI, Google for AI Race Panic” (Dec 3, 2025) 8 28

1 3 5 6 16 OpenAI is getting ready to launch GPT-5.2 soon | The Verge

https://www.theverge.com/report/838857/openai-gpt-5-2-release-date-code-red-google-response?utm_source=chatgpt.com

2 7 15 OpenAI's GPT-5.2, response to Google's model that wowed tech CEOs Including Sam Altman, may be next week - The Times of India

<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/openais-gpt-5-2-response-to-googles-model-that-wowed-tech-ceos-including-sam-altman-may-be-next-week/articleshow/125800161.cms>

4 10 11 13 14 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 29 【続報】 OpenAI 「コードレッド」 その後—— GPT-5.2前倒しとAnthropic CEOの痛烈批判 | 生成AIキュレーター

https://note.com/ai_curator/n/nc7de0c64b74b

8 27 28 Anthropic CEO Dario Amodei Slams OpenAI, Google for AI Race Panic

<https://www.webpronews.com/anthropic-ceo-dario-amodei-slams-openai-google-for-ai-race-panic/>

9 12 【長編解説】 OpenAI 「コードレッド」 とGPT-5.2前倒し、その裏で何が起きているのか #Python - Qiita

https://qiita.com/ryosuke_ohori/items/b8f476e9c572553e2282